年頭の
ごあいさつ

2024年　新年のご挨拶

一般社団法人　日本病院薬剤師会
会長
武田　泰生　Yasuo TAKEDA

新年明けましておめでとうございます。令和６（2024）年を迎えるにあたり一言ご挨拶を申し上げます。会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また，日頃から日本病院薬剤師会（以下，日病薬）並びに都道府県病院薬剤師会の活動にご理解とご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

この数年を振り返りますと，新型コロナウイルス感染症への対応を迫られた日々でした。不幸にもお亡くなりになられた方々には心から哀悼の意を表します。一方で，世界に目を向けますと，WHOの分析によれば，人口当たりの亡くなられた方の数は，日本は世界でも類を見ないほど少ない国として報告されています。これは，本邦の医療関係者の献身的な治療や支援に加えて，日本国民の公衆衛生に対する意識の高さと行動変容によるものとも言われています。このように世界的に高い評価を得ているのも，取りも直さず，日頃から保健衛生・公衆衛生に携わる薬剤師による国民や患者への啓発の賜物であると思います。会員の皆様におかれましては，引き続き，医療職としての社会的使命を果たすべく，新しい時代の変革に対応しながら，国民の健康な生活の確保と健康寿命の延伸に寄与していただくようお願い申し上げます。

いま，日本の医療は大きく変わろうとしています。「病院機能の分化と連携」，「地域包括ケアシステムの構築」を両輪として，地域の特性に合わせた地域医療提供体制の整備が進められているなか，病院薬剤師はさらなる病棟薬剤業務の充実と外来診療への参画，薬局薬剤師との連携，そしてタスク・シフト/シェアへの対応など，多方面にわたる業務拡大を期待されているところです。これらを効果的に実施するには，各施設において，機能に応じた病棟薬剤業務の実践が極めて重要であると考えます。しかしながら，令和５年度の届出医療機関名簿によれば，病棟薬剤業務実施加算を算定している施設数は全体の1/4に留まっています。一方，厚生労働省が調査・算出した薬剤師偏在指標によれば，特に地方において病院薬剤師の地域偏在が極めて深刻であることが示されました。故に，厚生労働省は都道府県に対して，2024年度からスタートする第８次医療計画において地域の特性に合わせた病院薬剤師の確保策を講じるよう指示を出しています。

各医療機関が各々の機能を果たすに見合う薬剤師数を確保し，充実した病棟薬剤業務が展開できてこそ，病院間連携，病院・薬局間連携が機能するのではないでしょうか。都道府県病院薬剤師会の皆様におかれましては，シームレスな薬物治療管理体制の構築に向けて，地方行政や薬剤師会等とともに取組を進めていただきますようお願い申し上げます。

2024年，新しい年を迎えました。日病薬は病棟薬剤業務のさらなる推進と薬剤師職能向上のための取組を継続して進めるとともに，薬剤師不足や偏在の問題についても全力で取組んでまいります。2024年が会員の皆様にとってすばらしい一年となりますよう，ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げまして，新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。